



デンマークの 食と暮らし研究会

NEWS LETTER JUL 2022

発行：NPO法人デンマークの食と暮らし研究所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル南館12F
Tel 03-3213-4801 Fax 03-3213-5406 ホームページ : <http://www.danishforum.jp/> メール：info@danishforum.jp

幸せな国デンマークで離婚率はなぜ高いのか



デンマークの離婚率は50%前後で、日本の35%前後よりはるかに高くなっています。幸せの国と話題になる事も多く、幸福度ランキング上位を常に保っているデンマークの離婚率はなぜ高いのでしょうか。

離婚率というのは同じ年の婚姻件数に対する離婚件数の比率です。他の統計方法でも、人口1000人当たりの離婚率はデンマークで2.6%、日本は1.7%となっており、やはり高くなっています。

以前は40%強だったデンマークの離婚率が、50%前後にまで増えたきっかけとして考えられるのは、2013年に離婚届受理前6ヶ月の別居義務が廃止され、夫婦の合意があればオンラインで申請が出来るようになったこと。もう一つは、デンマークで常に問題となっている労働力不足が背景として考えられます。

長い間政治的、経済的懸念だった労働力不足は、女性が労働力として参加し続けられる社会構造をつくる背景のひとつでありました。このことは、女性が自立して生活してゆけるための大きな要因となっています。男女の役割分担がより平等になると、労働と家事の分担が性差によらなくなり、離婚率が高まるのは、多くの国に共通する傾向です。

デンマークでは離婚率の著しい高さを受け、2019年4月に『新離婚法』が施行され、「18才以下の子供を持つ夫婦は3ヶ月のウェイトング期間(熟考期間)を持つ」、「離婚前にオンライン講座を受講する」、「離婚調停で子供の意見を尊重、反映し易くする」などの制度が新たに設けられました。オンライン講座は、離婚後の子供の誕生日会の開き方や、手続き中にパートナーとけんかになった場合の解決方法など17項目あるそうです。

この制度自体は離婚率を抑制する後押しには必ずしもなっていないようですが、離婚後の新たな生活を築く上で、意義あることと考えるデンマーク人は多いようです。共同親権はDV等の問題がない場合に限り、以前から認められていましたが、この制度では子供の権利がより重視されるようになり、子供に両親とのつながりを保障するものとなりました。お互いの考え方や、自身の気持ちが大切だと考える多くのデンマーク人にとって、離婚は前向きな出来事であるのかもしれません。(編集部)

ヒューマンライブラリー

ライブラリーとは本を貸し出す場所ですが、デンマーク発祥の「ヒューマンライブラリー」では偏見を減らし、相互理解を深めることを目的とした試みとして人を「本」として貸し出しています。

「本」役を担っている人は、トランスジェンダー・アーティスト・障がいをもった人・難民・ホームレスなど様々な経歴がある人たちで、訪れた人は「本」を借りると、30分間1対1または少人数で質問をすることができます。

借り手はどんな質問をするのでしょうか。本役の人によると、質問によっては時には回答を拒否する事もあるそうです。ヒューマンライブラリーのルールは本を大切に扱うこと。敬意をもって接すること。ヒューマンライブラリーは2000年にデンマーク・ロスキレで開催された北欧最大級の音楽フェスティバルのイベントブースの一角で始まり、その後非営利団体が設立されました。今ではこのコンセプトは世界70カ国以上に広まっています。

スローガンは、「本」を表紙で判断してはならないです。中身を読んでみると今までとは違った発見があるかもしれません。(編集部)



コペンハーゲンにあるヒューマンライブラリー

スーパーキーレン公園

コペンハーゲン市内のノアプロ地区に、2012年に完成した全長750m、約3万㎡の細長い公園があります。ノアプロ地区は、50カ国を超える様々な国からの労働者や学生が多く住む地域で、それぞれの習慣の違いなどから住民間の争いごとが絶えず、治安の悪化が問題となっていました。この問題を解決すべく、地域住民の共生や交流を目指し、デンマーク国鉄車庫の跡地を再開発してつくられた公園が、スーパーキーレン公園です。

スポーツエリア(レッドスクエア)・親子や住民の交流の場(ブラックマーケット)・見通しのよい緑豊かな公園(グリーンパーク)の3つのゾーンに分けられており、公園内には世界57カ国、108種類の様々な遊具や設備があります。日本からの遊具としてタコの滑り台が設置されています。これは北鹿浜公園(東京都)にある滑り台と同じものですが、日本では赤色のところ、デンマークでは黒に塗られ、また違った雰囲気になっています。日本と同じく、子供達に人気の遊具になっているそうです。



スーパーキーレン公園のたこ滑り台

ツール・ド・フランス2022



2022年7月1日コペンハーゲンからスタートし、7月24日パリ・シャンゼリゼの最終ゴールまで約3週間開催中のツール・ド・フランス第109回大会。フランス国外での開幕は24回目、10カ国目となります。デンマークでの開幕は2021年の予定でしたが、2021年に延期となった東京オリンピックの日程や、コペンハーゲンで開催されたサッカーのユーロ大会の日程の都合で延期

されました。そのため2021年はフランス国内のみの開催となり、2022年、待ちに待った北欧史上初デンマーク開幕となりました。総走行距離約3,350km、22チーム176人が参加し、平面だけではなく、丘陵、山岳、石畳など様々なコース、合計21ステージで過酷な戦いが繰り広げられます。

デンマーク国内では、1日～3日の3日間にわたり、コペンハーゲン市内13km、ロスキレ～ニューボー202km、ヴァイレ～セナボー182kmでレースが開催されました。間近で見られるレースに、デンマーク国内は興奮の3日間となったのではないのでしょうか。まだまだ続くツール・ド・フランス、前回大会で総合2位のチーム(Jumbo-Visma)でリーダーとして活躍したデンマーク出身のヨナス・ヴィングゴー選手は今大会も出場。他のチームに所属しているデンマーク人選手たちの活躍も楽しみです。

救世主教会

コペンハーゲン市内クリスチャンハウム地区に、市街を見渡せる絶景ポイントとして穴場的存在の教会、救世主教会があります。デンマークは、スウェーデンとの戦争中(カール・グスタフ戦争)の1658年、ロスキレ条約によりスコネ地方(現スウェーデン領)等多くの土地をスウェーデンに割譲させられたものの、1660年、コペンハーゲン条約によりトロンハイム地方(現ノルウェー領)とボーンホルム島を返還させることに成功しました。その結果、当時の国王フレデリク3世は中産階級からの熱狂的人気を得て、絶対王政を確立しました。救世主教会は、その絶対王政を体現する建築物のひとつとして、次期国王のクリスチャン5世がつくらせたものです。



救世主教会

教会は1696年に完成し、その上にある高さ90mの木造の尖塔は教会完成から約50年後に増築されたものです。教会内にある高さ36mのパイプオルガンは、コペンハーゲン市内で最古のもので、火事や戦争など様々な苦難を乗り越えた後、1889年から音が鳴らないままでしたが、1965年に修復され、現在はパイプオルガンの音色を聴くことができます。

コペンハーゲン市街の景色を360度満喫するためには、教会内部の木造の階段を400段上り、さらに尖塔の外側を囲むらせん階段を150段上る必要があります。塔がオーク材で造られているため強風で揺れるのに加え、急勾配のらせん階段は手すりが低く、階段の幅が狭い等、絶景だけではなく、スリル満点の観光スポットとなっています。エレベーターはありませんので、体力に自信のある方は一度挑戦してみてはいかがでしょうか。

2022年年会費についてのお知らせ

2020年以降の感染症拡大の影響により当研究会の年次活動が出来ない状況が続いております。その為、2022年は皆様からの会費をいただかないことと致します。ニュースレターは今後も定期的に発行していきますので、引続き本会へのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様とまたお会いできる日を、心待ちにしております。

デンマークの食と暮らし研究会事務局

編集後記

スーパーキーレン公園の記事でとりあげた、たこ滑り台。日本の公園には200基以上あり、幼い頃に遊んだ方も多いのではないのでしょうか。色が変わると印象がとても変わりますね。(編集部)